

小野ゼミでの思い出

第4期 OG 志賀 明奈

大学2年生の12月、私は小野晃典研究会のオープンゼミに参加しました。そこでは先輩方による白熱したディベートが行なわれていて、その迫りに圧倒されたことを今でもよく覚えています。まだ何のマーケティング知識も持たない私はディベートの内容をすべては理解出来ませんでしたが、他のどのゼミにもない小野晃典研究会の魅力を感じることは十分に出来ました。日吉時代、単位を取得するための最小限の学習しかしてこなかった私が、商学部でも1、2の活動量を誇る小野晃典研究会で何とか頑張れた原動力はこの時に生まれたのだと思います。それほどまでに先輩方のパフォーマンスは自信に満ち溢れていて、目が離せないものでした。

緊張の入ゼミ試験を経て、入会してからしばらくは迫りくる課題を人並みにこなすことに精一杯で、なかなか自分自身を省みることも出来ない日々が続きました。常々お世話になり過ぎていた小野先生や先輩方に少しでも成長した姿を見せたくとも思うようにいかず、歯痒い思いをしたことは1度や2度ではありません。今振り返ると幼稚な発想ですが、私はゼミに入会したことでもう自分も立派なゼミの一員になったのだと思い込んでいたのだと思います。言われ



2004年夏合宿にて（著者は中央）

たことを言われた通りに進めることはもちろん重要ですが、自分自身を成長させるためにより重要なことは物事に対して自分から積極的に働きかけることに他なりません。ゼミ理念でいうところの「自主性」はこのようなことだと私は解釈しています。この自主性が、ゼミ生活初期の私には欠けていたのだと感じます。

社会人となり多方面で活躍されている先輩方は、やはりどなたも学生時代のゼミに対する姿勢をそのままにそれぞれの仕事に取り組まれていることでしょう。先のオープンゼミでの先輩方が魅力的に感じた理由のひとつにも、当初予定にはなかった4期生の募集を決めてくださった先輩方の思いが伝わってきたかから違いありません。このような自主性に溢れた個人の集まりこそが小野晃典研究会であり、単に所属するだけでは十分でないのだと思います。

私は現在銀行に勤務しており、直接マーケティング論と関係している仕事ではありませんが、小野晃典研究会 OG として恥ずかしくないよう社会人生活をこれから送ることができるよう努力していきたいと思えます。